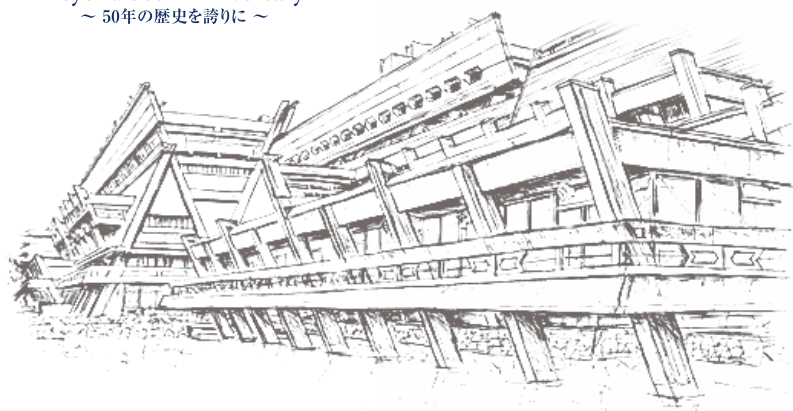


公益財団法人 国立京都国際会館 広報誌

Kyoto

2016
Spring

ICC Kyoto
50th
Beyond 50th Anniversary
～ 50年の歴史を誇りに ～



Kyoto International Conference Center



幅広い分野にわたる課題を地域全体で取り組み、さらなる飛躍に向けた活力あふれる関西圏へ



兵庫県知事
関西広域連合長

井戸 敏三 氏
Toshizo Ido

Profile 1945年兵庫県生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省（現総務省）入省。自治省行政局、財政局などを経て1996年兵庫県副知事。2001年兵庫県知事に就任し、2010年12月からは関西広域連合長も兼務。

インタビュアー

木下 博夫 Hiroo Kinoshita

Profile 1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路（株）社長等を経て、2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

地域共通の目標を設定し 関西広域連合を設立

木下博夫館長（以下、木下） 関西は、歴史、自然、産業に特色のある地域の集合体で、個性、魅力あふれるエリアだと思います。そんな、関西を束ねる関西広域連合の長としてのお考えや思いをまずはお聞かせ願えませんでしょうか。

井戸敏三氏（以下、井戸） 2015年12月、新たに奈良県が関西広域連合に参加しました。設立5年が経過して名実共に関西全域の府県域を超えた連合体ができあがったことになり、新たなステージを迎えることになりました。そもそも、関西広域連合の設立にあたっては3つの目的がありました。1つ目は、地方分権の受け皿をつくること。2つ目は、関西全体に関わる広域医療や災害、あるいは広域的な観光などに対して、総合的な調整を図る機能を持つ組織をつくること。最後の3つ目は、関西をひとつにし、それぞれの地域の課題を全体で解決していくような仕組みをつくることでした。昨年の国勢調査では、一部を除き関西地域の全体的な人口減が明らかになりました。関西広域連合では、企業や人材の流出に歯止めをかけ、東京圏への対向軸、また、アジアのゲートウェイとなるために、関西版の地方創生戦略をまとめ、関西としてのひとつの方向性を示したいと考えています。

広域的な防災や 医療体制の確立に向けて

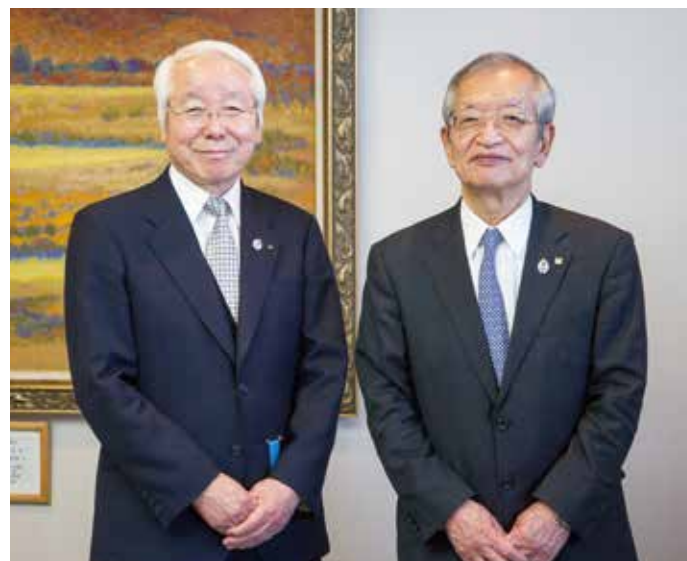
木下 兵庫県知事も務めておられる井戸連合長のお膝元・神戸は、阪神・淡路大震災を経験しています。その意味では、防災で関西が果たす役割は大変大きいのではないのでしょうか。

井戸 南海トラフ地震の発生は、今後30年間に70%の確率で起こると言われています。実は、首都直下型地震も全く同じ確率だそうです。2つの地震の性質を考慮すると、大阪・京都・神戸の関西の都市は南海トラフ地震が起きても全滅とまではいきません。一方で、首都直下型地震における東

京圏の被害は相当甚大なものになると予想されます。わが国全体として、社会経済、行政などの機能維持を考えると首都機能のバックアップが必要となり、関西はその役割を十分果たせると考えています。関西広域連合では関西を首都機能の代替拠点として明確に位置づけるよう、国に求めていると思っています。

木下 2015年、国立京都国際会館が日本医学会総会の主会場となり、関西エリアが一体的に医療分野に取り組む方向を示しました。関西広域連合は、広域医療を実施事務のひとつとして取り組んでいますね。

井戸 関西は、彩都ライフサイエンスパーク、けいはんな学研都市、神戸医療産業都市など、医療分野に関わる拠点を数多く抱え、大学や研究機関なども充実しています。この度、関西全体で健康をテーマに産官学による推進体制を構築してはどうかという、日本医学会総会会頭の井村裕夫先生のご提案もあって関西広域連合が事務局を引き受け、「関西健康・医療創生会議」が発足することになりました。現在、5つの分科会が組織され、医療情報の有効活用や遠隔医療、認知症対策、未来の地域医療や医療産業を支える人材の育成といった重要項目に取り組んでいるところです。



国際的イベントの開催を 関西復権の起爆剤に

木下 関西は、文化、芸術、自然の分野でも大いに魅力のある観光エリアですね。

井戸 関西広域連合としても、やはり、観光は重要分野のひとつ。現在、訪日外国人の数は東京がトップで、2番目が大阪で約650万人、3番目が京都で約430万人が訪れています。ちなみに兵庫は約120万人と、やや少なめですが（笑）。関西は大阪・京都・神戸の3都市以外にも、古都の奈良や温泉街の城崎といったユニークで個性的な観光地が点在しています。こうした豊富な観光資源を有効活用するためにも、関西国際空港や伊丹、神戸といった空港、これから計画されている北陸新幹線やリニア中央新幹線を含めた交通網の整備を関西全体で考える必要があります。実は、兵庫県の地域創生戦略のキーワードは「多様性と連携」です。同じように、関西も各地域の多様性を活かしながら連携していくことが大切だと考えています。それぞれの地域の良さが発揮できるようなコーディネート機能の役割を、関西広域連合が担うべきでしょう。さまざまな地域特性を内包する関西は、日本全体のまさに縮図。関西で一定のモデルを完成させる

ことができれば、日本再生のモデルに十分なり得るのではないのでしょうか。

木下 企業・産業活動や研究・学会活動面でのMICE（マイス）と呼ばれるビジネス要素の強いパターンや、体験型の見学会であるエクスカーションも観光の一種として捉えれば、関西圏は素晴ら



関西ワールドマスターズゲームズ2021大会マスコット
スフラ〜Sport for life〜

しい潜在力を持つ圏域ではないのでしょうか。

井戸 「関西ワールドマスターズゲームズ2021」開催時には、選手とともにそのご家族、友人の同伴が見込まれ、7万人以上が海外から関西を訪れると予想されています。大会期間中の1週間滞在することで、多大な経済効果が期待されているわけです。その際には、できるだけ関西各地を巡っていただき、木下さんもおっしゃられたような、エクスカーションなども同時に楽しんでいただける仕組みをつくりたいと思っています。関西広域連合としては現在、この世界的大会をぜひとも成功に導きたい、そう考え、全力を傾けているところです。また、MICE関連ですと、さまざまな国際的な会議を開催できる状況をつくっていくことも大切です。三重県も広域的な意味で関西と捉えれば、5月に開催されるG7伊勢志摩サミットは関西を世界に発信していく絶好の機会。9月には、神戸でG7神戸保健大臣会合も開催されますので、こうした国際的イベントを契機に、関西全体を世界に売り込んでいきたいですね。

木下 「関西ワールドマスターズゲームズ2021」では、私も事務総長の大役を担うこととなりましたので、しっかりと準備していきたいと思っています。本日は、ありがとうございました。

（文中敬称略）

特集

【誕生編】 Establishment period

The 50-year History of the ICC Kyoto

1966年の開館以来、今年で50周年を迎える国立京都国際会館。その成り立ちから今日までの姿を、4回シリーズの特集記事で振り返ります。
第1回は、日本初の公開国際コンペから始まる国際会館の誕生物語。

▶▶▶1957(昭和32年)

日本初の国際会議場の設立が閣議決定

日本に国際会議を積極的に誘致し、京都を中心に開催。国際会議と観光を同時に満たす、ニューヨークの国連ビル、ジュネーブのパレ・デ・ナシオンに匹敵する規模の施設を設立する。こうした壮大な計画のもと、11月8日、国立京都国際会館の設立が岸内閣で閣議決定。設計デザインは、日本初の公開国際コンペで行われることとなりました。

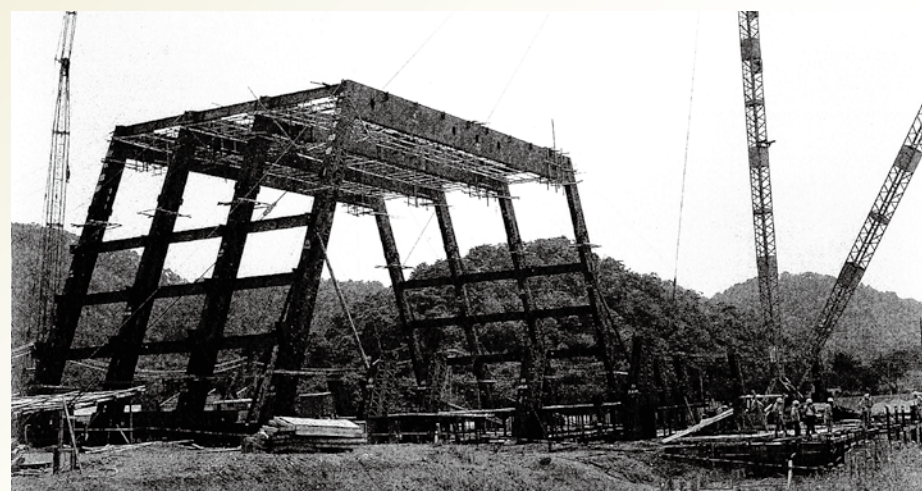
▶▶▶1963(昭和38年)

設計競技を経て大谷幸夫氏の案が採用

建設地の決定を受け、設計競技を実施。応募作品総数195点、15回にもおよぶ審査会の結果、当時新進気鋭の若手建築家として注目を浴びていた大谷幸夫氏(1924-2013)が最優秀作品設計者に。日本古来の建築手法を踏襲し、空間構成に台形と逆台形を巧みに取り入れた調和のとれたデザインが評価されての決定でした。



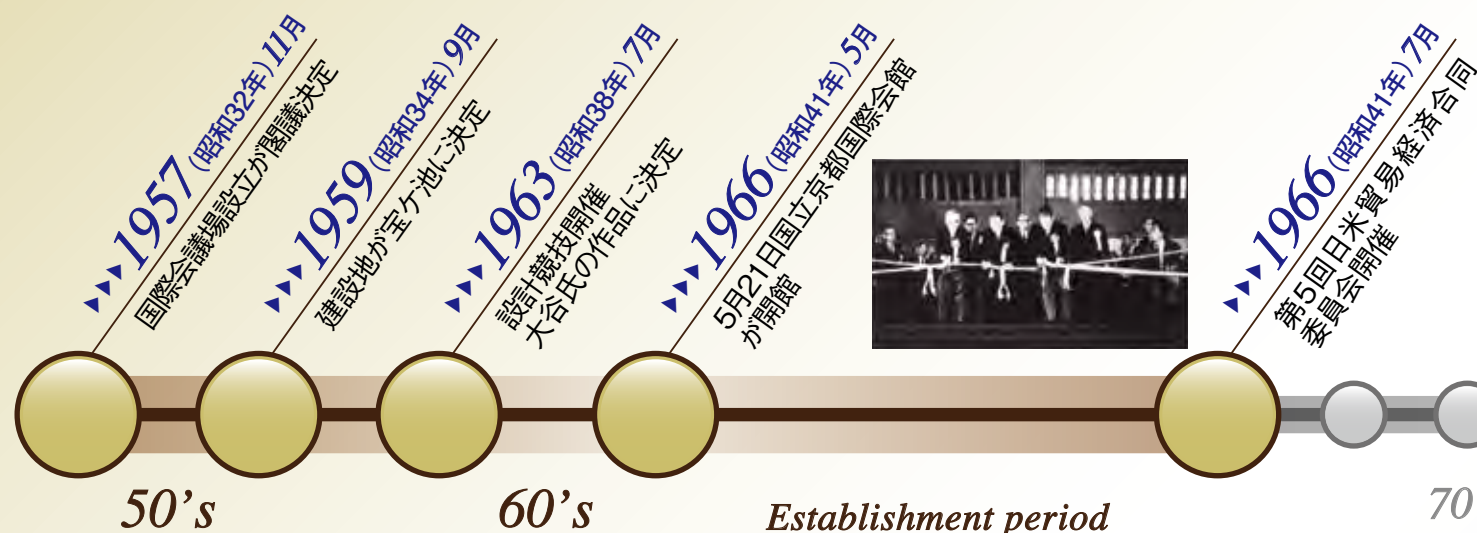
▲大谷幸夫氏(故人)



▲鉄骨組み

建築概要(開館竣工時)

建築延面積: 2万7,055平方メートル
(鉄骨コンクリート造/一部鉄筋コンクリート造
地上6階・地下1階・塔屋2階)
総面積: 15万7,100平方メートル
総工費: 39億6,000万円(用地費・調度品を含む)



▶▶▶1959(昭和34年)

日本初の国際会議場が宝ヶ池に誕生

数回の視察の後、9月に宝ヶ池に決定。当初は京都市の宝ヶ池のほか、大津市の皇子山、神奈川県の箱根が建設候補地に挙がり、熾烈な誘致運動が展開されていました。日本の歴史文化を象徴する地は京都の他にないとの理由が決め手となり、日本初の国際会議場が誕生することになりました。



▲国際会館建設用地(斜線部分) 写真上方は京都市街地

▶▶▶1966(昭和41年)5月

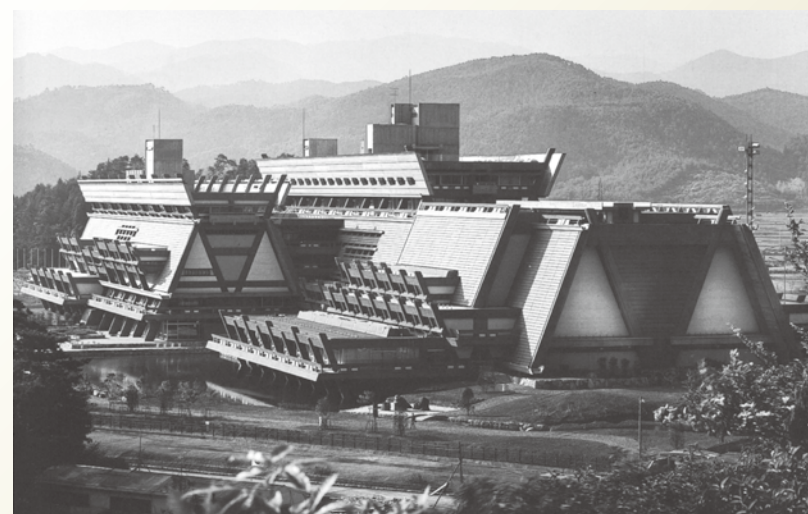
国立京都国際会館開館

5月21日のオープン時には、国内外のVIP約1,800名を来賓に迎えて開館式が実施されました。

▶▶▶1966(昭和41年)7月

「第5回日米貿易経済合同委員会」を開催

国際会議場のこけら落としとして、同年の7月5日から3日間にわたり「第5回日米貿易経済合同委員会」を開催。会議の様子は海外の数多くの通信社で取り上げられ、大成功のうちに閉会することができました。



会場全景▲



第5回日米貿易経済合同委員会▲

Column

#01 日本初の国際会議場誕生のきっかけは飛行機の中での国務大臣が交わした談話から

岸内閣の国務大臣であった河野一郎氏は、ガット総会に出席後「海外に出かけて行くだけでは、限られた人間の範囲での国際化。日本で国際会議を開かないと真に国際的にならない」ことを痛感。帰りの飛行機の中で、同乗者とそうした内容の談話をかわすことに。これが、後に国立京都国際会館誕生へと結びつくのです。

#02 国際会議のノウハウがないなか手探りの状態で情報収集活動を実施

国立京都国際会館は日本初の国際会議場だったため、完成時は国際会議開催に関するノウハウは皆無でした。そこで、当時の会館スタッフは参考になる情報を求めて、国連本部など海外の主要会議場を積極的に視察。主催者・参加者双方が満足する国際会議を開催することを目指し、関係者全員が一丸となって活動。その結果が、今日の成功につながっています。



Topics

国立京都国際会館 自主企画イベント

開催報告 ICC Kyoto国連シリーズ2

国連創設70周年記念シンポジウム ～未来を担う若者たちへ～

2015年12月12日(土)



昨年の12月、「国連創設70周年記念シンポジウム～未来を担う若者たちへ～」を開催。国立京都国際会館の自主企画事業「ICC Kyoto 国連シリーズ2」として、国連事務次長など数々の重責を担われた明石康氏をお招きしての基調講演と、明石氏と学生代表によるクロストークが行われました。

基調講演は「国連とともに歩んだ人生」をテーマに、明石氏の学生時代からスタート。国連の安全保障理事会に職員として従事し、カンボジアや旧ユーゴスラビアの内紛の調停に責任者として携わったことなど、国際社会で明石氏が残された数々の功績を中心に展開。学生としてアメリカ留学中に参加したイベントで発表した論文が、居合わせた職員に評価されて国連に誘われたというエピソードや、国連総会を見学し

た日が偶然、日本の国連加盟が承認された1956年12月18日だったことなど、興味深い内容ばかり。また、国連は安全保障の面だけではなく人権や経済問題など、幅広い分野の課題克服のためにさまざまな方策を行っていることを知ってほしい、あるいは、国連職員になるためには英語を正しく使いこなせることは必須であるといった、これからの国際社会を担う学生たちに向けてのメッセージも語っていただきました。

続いて、読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員の永田和男氏をコーディネーターに、学生代表の京都大学大学院の谷修造さん、同志社大学の水野綾音さん、近畿大学のノ瀬メイさん、京都府立洛北高等学校の鳥居千尋さんの4名と明石氏によるクロストークを実施。国連の役割はどうあるべきか、そのなかで日本はどのような役割を担うべきかといった内容で活発な議論が行われました。クロストークの後には質疑応答が行われ、会場の高校生からは「異なる民族間で共通の価値観を見いだすにはどうすればよいか」「日本人だからこそできることは？」などの質問が飛び、明石氏は一つひとつの質問に対して丁寧に答えておられました。

若者たち約1,000名の参加により、熱気あふれるシンポジウムとなりました。



国立京都国際会館 創立50周年記念イベント

開催報告

桜・さくら スペシャルデイズ2016 春の庭園特別開放ライトアップ 2016年3月29日(火)～30日(水)

今年は当館創立50周年を記念し、初の庭園ライトアップを行いました。館内の装飾は京都伝統産業ふれあい館にご協力いただき、和の雰囲気を皆様感じていただきました。また、京都市立芸術大学生による有名クラシック曲やジブリメドレーなどの演奏が、イベントに華を添えてくれました。両日も好天に恵まれ、多くの方(約6,000名)にご来場いただき、咲き始めた桜をお楽しみいただきました。



開催予告

乾杯の夕べ2016

2016年
7月30日(土)～31日(日) (予定)

京都市営地下鉄烏丸線「国際会館駅」開通を記念して始まった、夏のガーデンパーティーも今年で20回目。

国立京都国際会館50周年を迎えることもあり、今回は特別企画でお待ちしております。



国立京都国際会館 開催会議

『第7回KYOTO地球環境の殿堂』表彰式開催

2016年2月13日(土)



世界で地球環境の保全に著しい貢献をされた方々を顕彰する「KYOTO地球環境の殿堂」。その7回目となる表彰式が、国立京都国際会館のメインホールで開催されました。

今回の受賞者は、カナダ・バンクーバー生まれの日系三世のカナダ人で、ブリティッシュコロンビア大学などで教えるかたわら、カナダの人気テレビ番組「ネイチャー・オブ・シングス」のキャスターを務めたデヴィッド・タカヨシ・スズキ氏と、氏の娘でハイダ・グワイ高等教育学会やデヴィッド・スズキ財団の理事を務めるセヴァン・カリス＝スズキ氏。お二人は、親子での受賞となりました。他に国際エコロジー経済学会の創設者の一人、メリーランド大学名誉教授のハーマン・E・デیلیー氏が受賞し、3名が「殿堂入り」

者」に選ばれました。

表彰式では、京都市民を中心に約1,000人が集まるなか、デヴィッド・スズキ氏による記念講演を実施。温暖化で生態系の破壊が進む現状の報告が行われ、続いて、京都環境文化フォーラムを実施。デヴィッド・スズキ氏とヴァイオリニストの松尾依里佳氏、国際日本文化研究センター副所長の井上章一氏らによる、「世代を超えて、未来を守る」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。



KYOTO地球環境の殿堂とは

「京都議定書」誕生の地である京都の名のもと、世界で地球環境の保全に多大な貢献をした方の功績を永く後世にわたって称えるものです。京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人々の意志の共有と取組に資することを目的として、気候変動枠組条約第3回締結国会議(COP3)が開催された、国立京都国際会館にその功績を展示しています。

Pick up

第21回日本緩和医療学会学術大会

2016年6月17日(金)～18日(土)

欧米においては、患者のQOL(Quality of life:クオリティ・オブ・ライフ)向上を目指す緩和医療が注目され先進的な研究も進んでいます。わが国でも、1996年に日本緩和医療学会を創設。日本における緩和ケアの普及と発展に貢献し、現在、会員数は12,000人に及ぶ大きな学会に成長しています。第21回日本緩和医療学会学術大会は、メインテーマに「あなたらしさに寄り添って～愛と思いやり…そしてユーモア…」を掲げて開催。特別講演や教育講演、シンポジウム、ワークショップ、ランチョンセミナー、市民講座の実施が予定されています。

第1回世界麻環境フォーラム

2016年7月2日(土)

「麻」は、一年草の循環型植物資源で、利用用途は衣食住をはじめエネルギーや医療、産業資材など多岐にわたり、多くの分野で化石燃料等の地下資源や森林資源の代替となると考えられています。まさに今、バイオマス資源の象徴として注目を集めている植物。そんななか、世界の麻農家や麻の専門家が国立京都国際会館に集結し、日本を起点に環境問題や解決に焦点を当てたネットワーク「世界麻環境フォーラム」を結成。世界の先進技術や経験を結集して、麻による持続可能な循環型社会の実現を目指します。

会館

裏ばなし 第1話

「KYOTO 地球環境の殿堂」 展示スペース



地下通路円形ホール

「京都地球環境の殿堂」の趣旨や殿堂入りされた方達を、日英中韓の4ヶ国語で紹介しています。地球温暖化問題やその対策についても学ぶことができます。

京都市営地下鉄烏丸線の国際会館駅から会館へ通じるアプローチにおいて、COP3をはじめ地球の環境保全に多大な貢献をされた世界中の方々の功績をパネルや当時の貴重な資料と共に展示しています。国立京都国際会館内展示スペースと合わせて、ぜひご覧ください。



展示スペース(正面玄関)▲

開催予定イベント・会合一覧

2016年4月1日現在

催事名	日程	人数
第13回国際人類遺伝学会	4月 3日～7日	3,000
第56回日本呼吸器学会学術講演会	4月 8日～10日	7,500
第9回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦 京都大会	4月 17日	1,300
国際ロータリー第2650地区 2016-2017年度 地区研修・協議会	4月 17日	1,200
第89回日本内分泌学会学術総会	4月 21日～23日	3,000
国際ソロブチミストアメリカ日本中央リジョン第30回リジョン大会及び2015年度分科会	4月 25日～26日	2,500
第64回日本輸血・細胞治療学会総会	4月 28日～30日	3,000
第33回日本呼吸器外科学会総会	5月 12日～14日	1,500
第26回日本臨床工学会及び平成28年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会	5月 14日～15日	2,000
第59回日本糖尿病学会年次学術集会	5月 19日～21日	15,000
第6回「言の葉大賞®」授賞式	5月 22日	350
Ultrasonic Week 2016 日本超音波医学会第89回学術集会・第12回アジア超音波医学学術集会 第36回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 第8回アジア造影超音波シンポジウム	5月 26日～29日	6,000
京都スマートシティエキスポ 2016	6月 1日	2,000
第115回日本皮膚科学会総会	6月 3日～5日	6,000
第53回日本リハビリテーション医学会学術集会	6月 9日～11日	8,000
第21回日本緩和医療学会学術大会	6月 17日～18日	7,500
平成28年度公益社団法人京都府看護協会定時総会	6月 19日	550
第26回関西高校模擬国連大会	6月 20日～22日	230
第31回日本白内障屈折矯正手術学会学術総会(JSCRS)	6月 24日～26日	2,000
第17回国際クラミドモナス細胞分子生物学会議(第79回山田コンファレンス)	6月 26日～30日	150
The 21st Annual Meeting of the RNA Society(RNA 2016)	6月 28日～7月2日	1,100
第1回世界麻環境フォーラム	7月 2日	290
平成28年度京都府PTA指導者中央研修会	7月 7日	1,400
The 4th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	7月 7日～10日	700
第7回日本炎症性腸疾患学会学術集会	7月 10日	400
第121回日本循環器学会近畿地方会	7月 16日	1,300
乾杯のタベ 2016	7月 30日～31日	3,500

※参加者150名以上の会議

Pick up
イベント
(P6参照)Pick up
イベント
(P6参照)

2016 Spring号の表紙

誕生

国立京都国際会館の設計は、日本の伝統美を取り入れた大胆な発想で展開。表紙は、そのアイデアを生かしながら計画している様子をイメージしています。

ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
住所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
TEL 075(705) 1218
FAX 075(705) 1100
E-mail com@icckyo.or.jp
URL http://www.icckyo.or.jp/

国立京都国際会館

検索

©All right reserved - Kyoto International Conference Center